

平成 28 年度 活動方針

● はじめに

世界の政治、経済は中国の一段の景気悪化、円高基調、原油の大幅安による産油国の経済悪化、相変わらずのオバマ・アメリカの威信低下、中国の南シナ海にみられる覇権主義、ロシアのシリア・ウクライナ問題、難民問題、揺れるユーロと難問山積です。

日本においては急激な円高シフトがあるが、世界全体からみるとまだ安定勢力（予断は許せないが）であり、アベノミクスの正念場でもあります。一方大阪ではどう副都心構想を実現し大阪を元気ある都市にするかにかかっています。

大阪府高齢者大学校（以下高大という）では、経営理念に掲げる、学習を第一義に仲間づくり、健康づくりを推進し、社会への参加づくりを進めて参ります。高大の使命を果たすべく、高大の立つ位置をよく認識し、シニアによるシニアのための先駆的生涯学習機関として関西、ひいては日本を牽引していく原動力になりたいと思料しています。

● 基調方針

1. 教務部を本来のあるべき組織に戻します。受講生目線の運営に取り組みます。現場主義を徹底し生の情報を掴み、タイムリーな決断ができるように工夫します。
2. 教科研究部を強化します。人員増はもちろん分野毎の専門家を育成し、魅力的講師を発掘します。また、先駆的カリキュラム開発に取り組み、常にカリキュラム内容の充実に向けて模索し続けます。
3. 事業部の人員を増やし、能力・体力アップに努めます。教務部でやっていた事業・行事を移管し、教育部門と事業部門の 2 本柱とし、運営にあたっては、収支の改善に目を向けていきます。
4. 広報部門を新設します。従来の機関誌から広報・パブリシティに対応していきます。募集委員会はさらに幅広く人財を集め受講生の確保に努めます。
5. 戦略部門では「生き生き総合システム大学校 2020」に取り組んでいくとともに、将来のあるべき姿を見つめ、対策を立てることとします。また、10 年誌の出版に向けて準備します。
6. 情報管理部門ではホームページ（以下 HP）の充実により発信力を強化し、子ども事業にも力点を置き府民・市民の子どもを対象に 1,000 名規模の楽しいサイエンスフェアを企画していきます。
7. 校友会の強化のため、同期同窓会（以下 DDS）を結成し助成していきます。今のままでは減少の傾向であり、第 7 期生から実施していきます。
8. 大阪アクティブシニア協会への協力を継続し、アクティブシニアがあふれる大阪事業を推進し、アクティブシニアフェスタ事業、大阪出前サポートバンクを応援していきます。

9. 大阪区民カレッジは姉妹校として着実に力をつけ、地域密着型の大学校として形が見えるようになり更に飛躍していきます。
10. 関西シニア大学校交流会の幹事校として今年度役割を果たします。一方で勉強会を開催し全体のレベルアップに対処したいと考えています。

● 教育部門

1. 受講生 2,605 名（被災受講生 5 名を含む）で講座をスタートいたします。
63 科目と昨年より 1 科目減となりますが、本科教務部、実践研究部、教科研究部の「メンバー」を更に、増員して充実強化します。
2. 学習プログラムは 5 年先を考慮したシニア層の社会的ニーズを先取りし、受講生から喜ばれ魅力ある生涯学習の先駆的カリキュラムを開発します。
また、現行のカリキュラムについては、分野ごとの見直し方針を明確にし内容・質重視の視点から整理を致します。
講師については、大学などの教育機関と連携し、中長期的視点から優秀な講師を招聘します。
3. 教務委員会、クラスディレクター（以下CD）会議の運営について、抜本的に見直しを図り、徹底的に議論を行うと共に、かつ効率的に運営します。
教務委員（正/副）の役割を明確にし、メンバーも見直します。
また、曜日CD会議を通じ、CDとの意思疎通を図り、迅速な対応で信頼を得ると共に、充実・強化して運営します。
4. 曜日教務部長は、各教室に出向き、現場・現物・スピード主義に徹し、受講生、CD、講師の生の声をタイムリーに吸い上げPDCAサイクルを的確に回して参ります。
 - (1) 大阪市教育会館(以下教育会館)、大阪府社会福祉会館（以下福祉会館）、大阪府谷町福祉センター（以下谷町福祉センター）住之江公園管理事務(以下住之江公園)、森ノ宮ホール（以下森ノ宮）の各教室を担当制で巡回します。
 - (2) 即断即決、デイリー/ウイークリー/マンスリーでの課題解決の実施をします。
5. CDおよびスタッフ、人財の発掘・育成は年間を通じ、教育部門独自、戦略部門と連携し継続的に行います。また、CDのOB・れいんぼ一会の組織基盤を強化し、継続して人財を発掘出来るようにします。
6. クラスミーティングの内容・進め方を見直すと共に良い事例の水平展開を図って参ります。また、白熱教室についても、講師への啓蒙、テーマ選択について見直すと共に、評価システムの充実を図り愚直に進めて参ります。
7. 学習事業推進部は、主要行事には教育部門のメンバーが推進責任者となり、また従来からのアドバイザー制度を継続し、運営していきます。
さらに、CD・クラス委員長（クラス代表者）及び行事ごとの運営委員が連携して推進できるネットワークを再構築し、効率的に運営します。
8. 校友会と高大は、車の両輪との認識を強く持ち、高大行事はもとより、校友会との共催行事および同期同窓会（DDS）の運営などを通じ更に連携を強化します。

<本科教務部>

1. 専攻科目は 42 科目から 45 科目に増設します。講座の午前は講義の充実、午後はクラスミーティングの運営を見直し、本音の議論ができるよう、楽しい雰囲気づくりを目指し一年間を通じて良い仲間づくりを強力に展開していきます。
校外学習を併用し、社会への参加活動についても活動事例を水平展開し、授業を運営します。
2. 高大・白熱教室をさらに進化させていきます。指導役の講師陣との交流を行いレベルアップを図ります。受け身型の学習スタイルから能動的に人前で闊達に発言できる学習スタイルが少しでも身につくような授業スタイルにしていきます。
3. 講師交流会は、全科目の講師が出席するように実施方法を抜本的に見直し、年に 1 回開催します。
4. 修了式、入学式は、全員が出席したくなる楽しい行事としての企画・運営について原点から見直します。
5. 各クラスの委員長との連携を深め、クラス運営が円滑に推進できるように、全クラス委員長会議を新たに開催するように企画します。

<実践研究部>

1. 講座 18 科目 {シルバーアドバイザー (SA)養成講座 3 科目含む} 間で、実際の活動事例を紹介するなどの交流を行い、水平展開を図って参ります。
2. 「学習としての社会への参加活動」の認識を深め、在校中・修了後の地域での社会への参加活動へのキッカケ作りを目指して、実践活動を行います。
3. 社会への参加活動の実践を継続発展させるため、大阪区民カレッジ、校友会、その他高大関連団体及び地域社会との情報交換や活動の交流を強化します。

<教科研究部>

1. 数年先を見越した講座構築を念頭に、時代の変化や取り巻く環境の変化に素早く対応しながら内容の濃い「快適な生涯学習のカリキュラム」の提供を目指した活動を推進します。
2. 魅力あるカリキュラム・講師発掘を目指して継続した活動を行い、「生き生き総合システム大学校」に相応しく、また、シニアの関心度の高い科目揃えと科目力アップを図ります。
3. 分野別専門部会の活動が講座改革委員会の中核になる様なシステムを構築し、カリキュラム等の開発・向上に大いに寄与できる様にいたします。
4. 人財バンクシステムを構築し、常日頃から最適な運用を図りながら魅力ある講師の発掘・先駆的なカリキュラムの開発に努めます。
5. シニア目線に立った講座構築を目指し、常に科目の新陳代謝やシニアの関心の高さに合わせた講座開講に努めます。
6. 新規科目・バージョンアップ科目等の提案システムを構築し、受講生を含め高大一丸となった活動で魅力ある科目構築を推進します。

7. 市民公開講座、短期講座等の学習システムの検証を行いながら、広く府民・市民が魅力を感じる学習の場の提供を目指します。
8. ホームページなどに教室紹介を行い、府民・市民の高大に対する関心度を高めると共に科目選択や新規受講生獲得の一助とします

<学習事業推進部>

1. 高大の理念・方針に沿い、受講生のニーズを取り入れて「学習」、「仲間づくり」、「健康づくり」の3本柱を基本に置いて、遠足、スポーツ交流大会、高大祭、修学旅行ほか学習事業を推進していきます。
2. スポーツ交流大会および高大祭を最重点に捉え推進責任者として、教育部門のメンバーが専任体制で運営します。
アドバイザー制度は継続し、CD・クラス委員長（クラス代表者）およびクラスからの委員が連携して推進できるネットワークを再構築し、効率的に運営します。
3. これらの推進母体として、運営体制は、学習事業実行委員会と各行事実行委員会を一元化し、昨年と同様に早期に立ち上げていきます。
4. 高大グループとしては、受講生を主体として、校友会、大阪区民カレッジと一体となった体制を構築します。
5. クラブ活動については、受講生の自主性を尊重し、「この指とまれ方式」を継続し、早期に活動出来るよう取組みます。

<校友会連絡部>

1. 本校の同窓会連合体組織として、高大と協力して校友会への入会募集活動を推し進め更なる発展と定着化を図ります。
2. 高大主催のスポーツ交流大会、高大祭、夏・冬の音楽会等に参加協力し、高大との一体感を目指します。
 - ・ 高大主催の行事に参加し校友会入会募集活動を促進します。
 - ・ 同窓会連協の「文化祭」への参加協力や「教養講座」への参加協力を推進します。
 - ・ 高大と校友会との共催で実施する親睦一泊旅行への参加協力を推進します。
 - ・ 高大祭への参加協力を強化します。
3. 校友会主催の文化祭開催に向けて検討します。

<大阪区民カレッジ推進部>

大阪区民カレッジ中央校、北校、城東校、天王寺校、西校に加えて、大阪府民カレッジ東大阪校の計6校体制を軌道に乗せ、内部充実を図ります。また、行政機関や地域の諸団体との交流を深め、社会参加への活躍の機会を増やしていきます。

設立4年目を迎え、開設する校数の増がありますが、経費の節減に努め、収支の改善を目指します。一方、各地域で地域密着型カレッジ新設の要望もあり、体制を整えながら出来る限り対応したいと考えています。

<大阪アクティブシニア協会推進部>

1. 大阪アクティブシニア協会との連携を継続し、地域支援活動の実践力を高めることを目指します。
2. アクティブシニアフェスタ 2017 を支援します。
3. 高齢者施設、小学校、地域の各種催事、アクティブシニアフェスタなどへの登録演芸グループはじめ同窓会の同好会グループの参加を呼び掛け、日頃の練習成果を発表する機会の拡大を支援します。

<シニアスポーツ推進部>

シニアの健康づくり・体力づくりをめざし、ニュースポーツの出前サポートは関連講座と提携・協力し社会貢献の一環として事業の企画・運営を進めます。

1. 生涯スポーツディレクター（以下SSD） 高大グループは高大スポーツ交流大会で競技指導・審判協力、シニア向けのニュースポーツの出前サポートに協力を進めます。
2. 「大阪マラソン」及び「大阪国際女子マラソン」のボランティア募集を行い、参加協力します。
3. （公財）日本相撲協会との提携で大相撲名古屋場所・大阪場所の予約販売を行います。
4. 生涯スポーツディレクター養成講座を7月に開講します。
5. 「河内音頭大会」八尾市久宝寺緑地へ参加します。
6. 脳トレの一環として、「スポーツ健康麻雀大会」を年2回実施いたします。

● 事業部門

<渉外部>

文化庁の文化芸術振興費補助金事業を活かした地域活性化事業で「四天王寺の歴史に学ぶ」と称して次の取り組みを実施します。

1. 「四天王寺の歴史講話と探訪」を平成28年9月に計画します。
2. 「雅楽・舞楽のひととき」を平成28年11月に計画します。

<福祉部>

1. 「普通救命講習会」をクラスディレクターを対象として平成28年5月25日に、受講生を対象として平成28年9月に開催します。
2. 「特殊詐欺と自転車事故防止講習会」を大阪府警察により、平成28年7月20日に開催します。
3. 「ワインうんちく講座」を平成29年1月に開催します。
4. 7月18日（祝日）に李広宏氏による熊本地震被災者チャリティショウを中央公会堂にて実施します。

<イベント部>

1. 「第5回夏の音楽会」を関西歌劇団出演により、平成28年8月27日(土)に大阪府立エル・シアターで開催します。
2. 「第9回いずみホール音楽会」を大阪音楽大学楽団出演により、平成29年3月4日にいずみホールで開催します。
3. 国家戦略特区養父市との連携協定に基づき定期的に相互情報交換を行ない“まち起こし”の支援活動をします。
また、養父市物産の販売、日帰り旅行や一泊旅行、養父市民との交流を実施します。
4. 「シルバーアドバイザー認定証授与式」を大阪区民カレッジと共同で平成28年10月14日に開催します。

<東日本被災者支援大学校>

1. 東日本被災者支援大学校として、毎月開催している交流会の運営方法を見直し、被災者の方々が「集いやすい」、「本音を語り合える」場を継続して提供します。
2. 校外へも出向き、各種イベントへの参加機会を設けていきます。
3. 8月には、恒例となりました「東日本被災地支援ボランティアツアー」を企画し地元との繋がりを更に強化する活動を行います。
4. 大阪府内の「避難者支援団体等連絡協議会」にも参加、情報交換の場を通じ、連携した活動にも取り組んでいきます。

● 情報管理部門

<教務事務部・システム部>

1. 募集データの集計システムと個人情報の管理と入学準備の体制づくりを行います。
2. CDの交通費と講師の謝金管理システムの円滑な運営に努めます。
3. 出席簿の学期単位のデータベース化並びに修了証書・皆勤証書の発行を行います。

<子ども事業推進部>

1. 「法円坂子どもプラザ」科学実験ともの作り体験教室を年間8回開催し、科学実験講師養成講座も並行して8回開催します。
2. 「法円坂子ども教室フェスティバル」は7月に開催します。
3. 「科学の祭典」は今回初めて北区民センターにて子ども1,000名規模で開催します
4. 「ITパソコンお絵かき教室」は近隣幼稚園、小学校中心に15回以上開催します。

<ホームページ部>

1. ホームページ掲載内容の質の充実向上を図ります。
2. 「イベント情報」、「募集状況」をリアルタイムに更新します
3. 各クラスでのブログ立ち上げと高大ホームページへのリンク化を推進します。

● 戦略部門

<調査部・政策部>

1. 関西シニア大学校交流会及び勉強会開催について実行委員会を編成し実行する。徳島県を含む関西地区大学校の底上げと元気なシニアへの刺激策を講じて行きます。
2. 「5年先を見据えた戦略」における「生き生き総合システム大学校 2020」を目指した取組みの中で、明らかになった課題と新たな取組みについてアクションプランを作成し、つぎの取組みを実施することとします。
 - (1) 戦略室の本来機能・役割（高大戦略室のあり方）と新たな取組みについて検討し、具体的な活動を展開します。
 - (2) 人材（発掘・養成）について、教育部門との連携を強化した効果的な人材発掘を行い、具体的な実践活動を通して人材の育成を図ります。
3. 今年度末、出版予定の「高大 10 周年記念誌」作成に向けて、7月より執筆者の提出原稿の文案チェックを「10 周年記念誌編集実行委員会」において 10 月までに完了し、記念誌の出版に取り組むこととします。
4. 大阪府アクティブシニア政策勉強会は、内部の常識に捉われず、外部有識者からの新たな知見を高大のカリキュラムに取り入れ幅広い社会参加活動の実現に寄与してきました。今年度はこの勉強会を本来の高大を取り巻くステークホルダーの勉強会として位置付け直し、社会の変化に敏感に対応できるよう学習し「生き生き総合システム大学校 2020」を目指すための施策として展開します。

<人材発掘事業開発部>

1. 昨年度に引き続き「ふれあいカフェ」として、人材の発掘と意見交換等を通じて、本来の活動主旨である高大を更に発展させるため在校受講生の意見交換による課題の掘り起しと課題解決に取り組んでいきます。高大に集う受講者は能力も高く多才な受講生が多いことから高大の活動に参画可能な人材の発掘も期待できるものと考え、本年度も引き続き受講生の参加促進を図っていきます。
2. 高大グループの三本柱となる「高大、大阪区民カレッジ、法円坂子どもプラザ」において、今後世代間交流等で発展が期待できるのが子ども事業です。人材育成の一環として短期間で成果は期待できないが、中長期的な事業拡大の目玉になるような、子ども事業部と一体感のある取組みを展開します。

● 広報部門

<広報>

高大広報誌「れいんぼー」は年 6 回（5 月、7 月、9 月、11 月、1 月、3 月）をオールカラーにて発行します。

11 月、3 月号は、校友会、姉妹団体を含めた特集号として、各団体の PR 活動を行い、地域団体に参加して社会参加活動のきっかけ作りを促進いたします。

<パブリシティ>

今年の強化セクションで、「メディア」および「企業」の二つの方面から高大の発展・飛躍に繋がる情報を絶え間なく外部へ発信し、高大の価値・認知度を高める。

そして、新規受講生の大幅な獲得に結び付ける。ニュースリリースを都度発行しメディアとの接触のチャンスを増していきます。

<募集委員会>

「平成 29 年度受講生募集」は平成 28 年度の受講生募集の総括と応募結果の分析を行い、特に科目の選定と内容の充実を図り、定員の見直しと地域別受講者の分布を分析し、受講生の少ない地域の活性化を図ります。

そして、募集委員会を早く立ち上げ、早めの取り組みを行ってまいります。

1. 「平成 29 年度受講生募集」の方針と骨子を早めに協議し決定します。
2. 府政だより、区民だより、市政だよりなど府下市町村への広報活動を早い段階から開始し、校友会、地区 SA、同窓会などの組織を通じ PR していきます。
3. 募集要項の案内チラシを作成し、府下で行われるイベントや企業にも告知してまいります。募集要項を従来の「募集要項」と「三つ折りチラシ」の二種類作成し、それぞれ特色を生かした配布を行い、新規受講生の獲得に向けて行動します。
4. 地域別受講生の分布分析を行い、オープンキャンパスの実施、講座説明会の開催場所の増加、受講生数の少ない地域にチラシの配布など実施していきます。
5. HP に募集要項、応募状況をリアルタイムに掲載発信し、新規応募者への早期告知を図ります。

● 総括部門

平成 28 年度は 63 科目にて 5 会場（教育会館、社会福祉会館、谷町福祉センター、住之江、森ノ宮教室）に分散し、受講生の方々には、共通講義の開催、クラブ活動、受講生間の活動などでご不便をおかけしています。NPO 法人として資金面において、教育会館を中心に 5 会場に集約せざるを得ません。

今後、分散化されている 5 会場の施設の待遇面、講座内容により均質化を図っていくことに重点を置いていきます。

<経理部>

1. NPO 法に基づいて、経理処理を行っていますが、改善すべきところから順次進めていきます。
2. 組織の拡大に伴いロスの発生も予測されるため、きめ細やかな事前防止策を立てることとします。

<事務局>

1. 認定 NPO 法人の資格取得のための対策を推進します。
2. 受講生手帳の改善は受講生の声を反映したものにしていきます。

3. 事務所内において、事務作業が増大しており、消耗品の使用の見直しを図りながら資源の節約を進めていくこととします。

<ファンド・社会事業部>

1. NPO 法人の認定取得が遅れていますが、引き続き子ども活動事業を中心に社会貢献を進めていくため、寄付金募集活動を推進し、基盤の拡大を図ります。
2. イベント及び社会貢献事業などを通じて、募金活動を継続して進めていきます。

● 高大なにわの宮会

今年度 2 年目に入り、活動を本格化し広く浸透させて参ります。キャッチフレーズは、【元気な風 ふかそう】です。

1. 挨拶運動の推進

明るく風通しの良い環境作りのため、基本となる挨拶を広める運動を継続的に実施して参ります。

理事長以下高大スタッフが率先して先頭に立って展開します。新学期が始まる 4 月は、理事長、曜日教務部長、高大なにわの宮実行委員などが登校時に会館入口などで挨拶運動を行い、以後の継続的な活動に繋げで参ります。

2. 受講生との対話

受講生の意見、要望をくみ上げ、適切に解決して行くために、また高大の方針・考え方について理解を深めていただくことを目指して、6 月から順次、昼食時間帯に「OO さんとお昼のティータイム」として理事長を囲む会を設定し、受講生との間の風通しを良くすることに努めます。

3. 広報活動

高大なにわの宮会の目的、活動内容の周知を図るため、高大ホームページの中に「高大なにわの宮会」のブログを立ち上げます。

また広報紙「れいんぼー」に枠を確保し、高大なにわの宮活動を紹介する記事を掲載します。また掲示板では、タイムリーな情報提供を行い充実を図って参ります。

川柳募集は年 5 回予定しており、5 月はお題を「入学式」、「友達」として、その結果を「れいんぼー」34 号に発表します。

4. その他活動

高大なにわの宮実行委員会を定期的に開催し、常に有効な活動内容を検討して参ります。